

(72)0703 見 逢 か す 絵

061215 締 め 切 り 提 出 061215

## 旅 の 絵

このところ旅行中に、水彩画を描くことがとても気に入っています。逆に、絵を描くことを主な目的に旅行を計画したりします。その代わり、旅行荷物が増えます。わたしは、小学校以来絵を描いたことがありませんでした。職業柄というか、学会などで海外へ行くことも多かったのですが、大多数の日本人がそうするように、あちこちでパチパチと写真を撮っていました。パチパチという状態ですから、たいした思い入れもなく、数だけは多く撮っていたのですが、あるころからもう少し自分の思い込みが残るようなものを作りたいと考えるようになりしました。

ちょうど、著名なファッション・デ

ザイナーで、水彩画家が外来患者だったことから、そんな話をしたところ、「近頃は、上手下手はいわないのです。その人らしさのある絵が描けたらいいのです」といってくださったのが、背中を押してくれました。最初は、葉書に絵を描いて、旅先から家に送っていました。どこの家でもそのようですが、ソクラテスの例を持ち出すまでもなく、妻は世界中で一番厳しい批評家です。よく描けたと判断された絵は、花マルこそ付きませんが、ときには額に入れて飾ってくれ、ダメなやつは日の目を見ません。小学校低学年並みの扱い方です。

## 右脳が活性化

ところで、この絵を描いてみたいと思うようになったころには、逆行的に考えると、わたしの頭の中で急な変化

が起こっていたようでした。絵の中に描いた年月日が記入されているのですが、最初に描いたのは1986年となっています。気功に興味を持つようになったのが、1995年です。わたしは、ずっと極端な右利きだったのですが、脳血管に変化が起こって右手が使えなくなったときの準備として意図的に左手を使うようになったのが、1995年ころだったと記憶しています。つまり、それまでは人工臓器研究などという左脳の絶対的優位なはずの人間が、急に右脳が優位の人間になってしまったのです。同年輩のほかの人にも、少し尋ねてみたのですが、そのような経験をした人はいないようでした。初老期にかかり何が起こったのか、自分自身に興味があります。

自己流に満足

当然のことながらというか、自分の描いた絵が大好きです。自画自賛の状態です。ときには、もう少し上手にならないかなと思ったりもします。妻も、「基本だけでも少し習ったら。。。」ともいいながら、「あなたの絵らしさがなくなるかも。。。」ともいいます。本人は、「あ～だ、こ～だ」といわれるのなら描きたくないのです。自分で好きなようにするから楽しいのです。

ある人が、わたしの「遠くを見透かす絵が好き」といってくれました。これは、鋭い指摘でした。自分でも近景の絵はなんとなく閉塞感があって、気持ちが悪くないのです。伸び伸びと手を広げたような櫛（ケヤキ：木偏に手を挙げる）の木が好きな性格の故と考えています。ですから、わたしが絵を描くのは基本的には、冬の間はお休みです。外で写生はできないので冬眠に

入ります。

お世辞を含めたお誉めの言葉で、一番うれしかったのは、患者の70歳代の母上が、「こんな絵を描く人で、悪い人はいない」といってくださったことを伝え聞いたときです。いくつになっても、お褒めの言葉は、またやる気にしてくれます。

私の絵は、絵はがきから始めたので小さいのです。大きい絵も描いてみたいと思い、試みたことがあります。どうしても全体のバランスがとれず、気に入りません。とくに、空間が間延びしてしまうのです。近頃はパソコンでスキャンした絵にいろいろ手を加えることができます。大きな自分の絵をパソコンで縮小してみると、空間はそれほど違和感がありません。美術館には、縦横何メートルもある大きな絵が飾ってありますが、あの空間を感覚的に隙

間なく埋めることができるのが才能というものだと思います。また、空間が存在することによって絵全体が活きているのを実感することもあります。

### 売れる絵・売れない絵

自分で絵を描くようになって、あちこちの美術館をのぞくようになりました。若い頃の自分からは想像もできなかったことです。

ときには、一人の画家の絵を時系列的に見ることがあります。素人のいい加減な判断ですが、若く不遇な時代の絵に感じられるある種の鬼気・殺気・気合といったようなものが、世間的に認められておそらくは裕福になったときには失われていることに気がつくことがあります。「衣食足りて礼節を知る」といいますが、「衣食足りて気合を失う」のは、この世でしばしば起こ

ることのようにです。ゴッホの多くの絵に今も残る気合は、生前には世間に認められず、狂気のままに亡くなった怨念が伝わるのでしょうか。

しかし、一方では、快慶・運慶や高村光雲らのように生前でも名声を博したと伝えられる人たちの彫刻作品に長年月が経った後にも鋭い気合を感じることができるのはどういうことなのでしょう。

売れる作品については、小林秀雄が菊池寛の小説の評論として次のように書いています<sup>1)</sup>。"一般読者は、実生活に対して鋭敏なように小説に対して鋭敏なのだ。彼らは思想や理論や描写に対しては鈍感かもしれぬ、しかし小説中の人物の一喜一憂に対しては友人の表情に鋭敏なように鋭敏なのだ。。。菊池氏の新聞小説には、もし通俗性という言葉と大衆性という言葉をはっき

り 区 別 す る な ら ， 通 俗 性 は な い ， 大 衆  
性 が あ る の だ 。 作 者 は 読 者 に 面 白 く 読  
ま せ よ う と 努 力 し て い る 。 。 。 僕 は 菊 池  
氏 の 作 品 に つ い て 不 満 は 述 べ ま い ， そ  
れ は 僕 が 新 し い 時 代 に 生 ま れ た と い う  
お か げ で も つ 不 満 に す ぎ な い か だ 。 ”  
不 満 は 述 べ ま い と い い な が ら 、 明 ら か  
に 不 満 だ っ た の で す 。

こ こ か ら 推 測 さ れ る の は ， 芸 術 作 品  
が 一 般 大 衆 に 好 ま れ る た め に は ， 作 者  
自 身 の 素 質 と 努 力 に 由 来 す る 何 ら か の  
大 衆 性 が 必 要 で あ る と い う こ と で す 。  
芸 術 性 を ど の よ う に 評 価 す る の か は 知  
り ま せ ん が ， 気 合 の こ も っ た 芸 術 性 な  
ど は ， 同 時 代 の 一 般 大 衆 に で も 受 け 入  
れ ら れ な い こ と が あ る と い う こ と な の  
で し ょ う 。

ま た 、 売 れ な か っ た ゴ ッ ホ の 絵 に つ  
い て の 論 考 が あ り ま す 。 “ わ れ わ れ は  
最 も 偉 大 な 預 言 者 た ち に 石 を 投 げ つ け ，



最も情け深い救い主たちを礎にする。  
文化には、異質な誰か、あるいは現状  
に挑戦する誰かを受け止め、あるいは  
滅ぼす、すさまじいホメオスタシスが  
備わっている。真の芸術家 - < 存在  
being > の深みに降りて行き、社会の土  
台を揺るがすかもしれないものを持ち  
帰り、そしてリアリティーの新しいビ  
ジョンを創造する人間 - であることは、  
恐怖を覚えさせる”<sup>2)</sup>。

生きている間に栄誉と富を得るか、  
死んだ後に真に実質的な評価を残すか、  
人生は悩みが多いのです。

引用文献：

1) 小林秀雄：菊池寛論。作家の顔、p67、  
の新潮文庫、草7B、1961。

2) Elkins, ND : Beyond Religion, 1998 (大野純一訳：  
スピリチュアル・レボリューション、  
p191、星雲社、東京、2000年。

挿絵：初冠雪の富士。2006年10月日例

年より6日遅く、富士山は初冠雪でした。ちょっと、赤富士になりかけて。。空は、冷たく澄んだ青で。。下界は、緑から黄色に移り始めたばかりです。